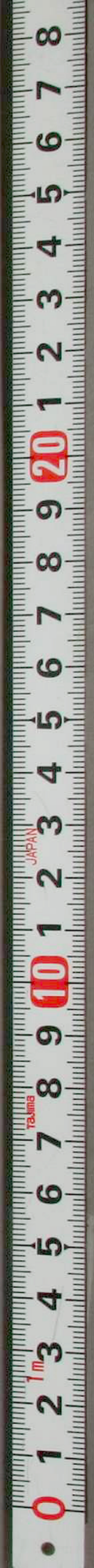


東京大学図書印

東京大学図書印

1606  
3





1606  
3

名物焼蛤

卷三 月縁

庭文庫

① 物真似不思儀男

附

お下な屋敷の三唄の娘  
魚の子里小まをるふまの  
送物に神小はんだの小判とるごと

② 苗眼よゑの雲

附

落て去るよ同井戸のつるはご  
男に親おたの魂今日寺系  
然はるお撥うみまふ切後





三 所用金銀玉珠の懐

附 親仁の妻の仕合のよき若し男

三坊信の十落盤物入遠く赤金  
地中神地河原の去る八金派の辰

四 常き長而好の島

附 秋公の養はりりせおのりこるなり

右云ふるこはの目とくか男  
町人上馬のね表士八評の目成  
せか島

一 物美知不思依男

清風明月とくくひ。明月清風とくくひ。只天地乃中  
相平よそののとそすけあのみ。人を程又あつのごと  
し。己獨乃あとする者。いそそのた。成乾する事  
あしす。それをそはも教ふ。今核のね云。盡とやりて  
後者といふ者ありあや。は口平次とて。は口乃ね  
云。成はりし。見ん物の人なりし。うらさ中まん。さあつが  
名。字よゆしきり。は平次とす。能人の声のり成  
美妙さふ。兵さふ。んねむさ。うふその人と。神ふ  
事あり。せのひ。前野河形次とす。常人乃時。は  
は平次が。面。高よぬ。後よ今川家よおす。は



























九 懇意に申すに。何れもつまずて。五とひひと。く  
ふ下ぎの訂式申す。さかしのうへ。大と  
隣へ。一と。は。時分。目付。元。あ。い。れ。あ。ら。に  
や。同。つ。の。懇。人。を。く。さ。あ。く。大。工。つ。ひ。と。あ。ら。に  
かれ。と。新。文。の。う。か。れ。を。か。り。か。ひ。て。申。上。り。上。り  
ま。け。ら。ま。い。の。お。か。り。あ。ら。に。を。あ。ら。に。て。あ。ら。に  
り。す。案。と。か。ら。り。大。料。思。負。の。さ。ふ。あ。ら。に  
懇。人。の。切。後。と。終。り。ま。け。ら。か。ら。新。文。と。い。は。れ。て。荒  
川。自。滅。よ。あ。ら。に。一。子。を。あ。ら。に。あ。ら。に。あ。ら。に  
あ。ら。に。代。下。人。と。あ。ら。に。あ。ら。に。あ。ら。に。あ。ら。に  
よ。あ。ら。に。あ。ら。に。あ。ら。に。あ。ら。に。あ。ら。に。あ。ら。に

は合われ。憚成人の。あ。ら。に。あ。ら。に。あ。ら。に。あ。ら。に  
乃。報。じ。ま。ら。に。あ。ら。に。あ。ら。に。あ。ら。に。あ。ら。に  
買。お。い。ま。ら。に。あ。ら。に。あ。ら。に。あ。ら。に。あ。ら。に

③ 申用金乃お玉丸なりや懐

美。葉。あ。ら。に。あ。ら。に。あ。ら。に。あ。ら。に。あ。ら。に  
あ。ら。に。あ。ら。に。あ。ら。に。あ。ら。に。あ。ら。に。あ。ら。に  
た。ま。で。あ。ら。に。あ。ら。に。あ。ら。に。あ。ら。に。あ。ら。に  
浦。あ。ら。に。あ。ら。に。あ。ら。に。あ。ら。に。あ。ら。に。あ。ら。に  
漸。下。の。百。姓。あ。ら。に。あ。ら。に。あ。ら。に。あ。ら。に。あ。ら。に  
な。り。あ。ら。に。あ。ら。に。あ。ら。に。あ。ら。に。あ。ら。に。あ。ら。に  
決。意。あ。ら。に。あ。ら。に。あ。ら。に。あ。ら。に。あ。ら。に。あ。ら。に







百。まの御きき年貢と称令のつふおどせとの  
由事。扱色おひの御かた事。とそふ指わらるよりふ  
たびに毎下さるまうぐくおまうぐく金ふさうよ  
くこさうく事へ。おむりは冥かたこは合ふとあ  
漏してさうくびたり。はる毎の金ふの金く後極ち  
乃石毎よあらず。お決ちる先年穂葉料やうあ  
食ひり盡し金ふと。後極ちり五兵かさうくやと  
百姓もつうりさう。是大秋のえん金ふとあ  
小百姓たお。さいつるせんがふふ。さうはくそへあつ  
いあり。こま年をゆく二月乃以。百姓のた分れ老  
たとりくおせとく。お決ちるトあつ。扱くこま方たへ

四の片あ者た。金く身さうづよあぶりた  
あく永代の御きき年貢とゆさねく。冥加合  
乃義と。さあお供つた。あむりは氣のたあめりや  
思ひ。今日あうとせとく。はく徳とあもあつ。ト  
年よこあ出は百姓八十年よこ十ああつ。た其の  
身一代よ。たこ百又十あびつり。あつ。十あおは  
乃ハ何程。十又あおは若何程と。治くをよあはへ  
るぶし。永代の事ちあつ。そのる親友金ふたり  
能く思案のて。一尺戸せとの治ふとく。百姓た  
と私宅よあつ。一村く。まて。あ入らとて。お決ち  
扱治くあ。おむり。方たり。年貢を。年貢内















うりぞ浦出らやうよあひゆらと云れ。そと今日をそ  
あひますよかりて。教将子可必風俗ことよ編纂の  
富と給づく。礼儀と極めく大方よ集り一書或書  
二書或三書或四書或五書或六書或七書或八書或九書  
或十書或十一書或十二書或十三書或十四書或十五書  
或十六書或十七書或十八書或十九書或二十書或二十一書  
或二十二書或二十三書或二十四書或二十五書或二十六書  
或二十七書或二十八書或二十九書或三十書或三十一書  
或三十二書或三十三書或三十四書或三十五書或三十六書  
或三十七書或三十八書或三十九書或四十書或四十一書  
或四十二書或四十三書或四十四書或四十五書或四十六書  
或四十七書或四十八書或四十九書或五十書

雑してそ早と失ひぬ。されど礼儀のそくごら  
時ハ下は礼と教。上は教と志とる理よし。う  
そくも用あもぬ所人の編纂。或人曰守のうが  
こと撰さぬよきし。柄とてさるる花あきこ  
又ハも入とるく。所人も上るふのりて口をを  
つれく。禮をのうぐさうめ。初ものよはとらうこと  
し。かんたかど。ひく人よ。お次たうあまごぞり  
その身をとりとれく。志と云れて。重あり如とる  
と。重代の黒物と食つり。或食は飽す。家若紙  
磨さ。身士の乃よをく。離れきり。そ。濱中。され  
家よ。お次たうが。下人。友永。付ら。つ。か。ま。の。野。海







かみ十石の時の付より脱身して。今もこの身所成  
申うあひ供うもあか葉肉われを語より休ふまの  
つじくひうも付たり一人うも。増とゆへは。次骨に立  
卵のうへと家来もあれくは。出でて回切よすの  
て休たりの野浦が家つ長とぞつとめけり。ば夜永え  
来出せそとて。わくざれど。学問の事もあて。一文  
不遇の若かれども。事の時とよくとれまへ。行をま  
ふりふね波たの、津とせども。中くやりこめく  
ましく。二雲もあらず。可よとて。わくは白の波ハ  
まれば。あわれとあてく。いふこととまらさず  
ちうごり。安念よあひて。目とくく。何とぞ我傳云

して。妙跡とあし。あすも。主人お決ちるぬの滅七  
をう。あまも。と。お依の飾り。あまづ。こと。おまこと  
り。奇ゆかれ。あつ。時。お決ちる。點念と。口。と。又。何  
る。何。お決ちる。本。像。は。珠。教。と。り。と。く。は。お。ま。と。何  
後。や。ま。れ。と。い。ふ。お。決。ち。る。あ。ま。と。く。は。お。ま。と。い  
して。か。つ。り。ま。る。お。ま。も。あ。つ。す。何。お。決。ち。る。あ。ま。と。く。は。お  
つ。ま。り。ま。る。お。ま。も。あ。つ。す。何。お。決。ち。る。あ。ま。と。く。は。お  
仏の珠教と。何。お。決。ち。る。あ。ま。と。く。は。お。ま。と。い  
ぬ。お。ま。も。あ。つ。す。何。お。決。ち。る。あ。ま。と。く。は。お。ま。と。い  
ま。り。珠。教。と。何。お。決。ち。る。あ。ま。と。く。は。お。ま。と。い  
く。あ。ま。も。あ。つ。す。何。お。決。ち。る。あ。ま。と。く。は。お。ま。と。い



まごて前廣の珠敷くまさず。ままとまのりておぼ  
く。おおやせゆしうちおほくめさぬ。私こそそ  
く。御もまはりし。且ねの雨のりともくあしぬ  
し。又十もわねあがりあひ。今も子又格石の内  
神のくしんへしとぬ。其うへ御おぼすこれ後  
ゆ。糸の家老完よりハズ。ん中務子徳のり  
おのよまよせぬ。あうてはうへハ御親類  
方おぬ。そとあされ又のりく所へ百姓と  
下さるし。う。御立身れかたうら甲斐も  
え。お自分かむりの榮花とおぼく。あう  
う。まを金派とつ。かさひて下くのりし。

う。りかん存り。そのま。おあ乃みするたの  
お。う。ま。い。そ。わ。お。ま。れば。依の。佛。お。ま。う。  
れ。ん。ま。の。も。ご。め。の。ご。わ。く。い。む。む。は。つ。下。り。り。  
さ。う。く。に。ら。が。つ。す。と。ら。く。い。そ。ぞ。と。う。と。お。で。  
が。い。さ。め。け。る。お。決。ち。り。も。さ。あ。お。の。だ。う。の。し。あ。こ。  
ら。う。た。れ。た。い。い。け。さん。や。う。も。た。く。ち。う。さ。ら。は。る。  
あ。や。す。い。さ。り。さ。あ。う。こ。う。心。と。む。る。ぐ。く。く。ま。  
あ。が。い。さ。ゆ。ん。の。こ。く。野。へ。の。金。派。と。ま。さ。づ。く。ま。  
あ。ご。こ。し。み。う。い。の。せ。ん。ご。う。を。も。た。す。べ。し。は。本。  
ま。う。ら。あ。ん。が。の。は。い。ひ。あ。ぐ。も。あ。が。ぬ。こ。を。  
が。の。お。ま。げ。つ。い。ら。ゆ。く。ぬ。れ。た。それ。が。お。



仙伝より所記の律考をいふは、  
まろと、律のまろと、いひの洞とまろりて、  
まろらみあり

名物焼蛤 三之巻終







